

令和7年度 保育所型認定こども園 教育・保育要領に基づく自己評価結果

作成日	令和8年3月31日
法人名	学校法人 永原学園
園名	西九州大学附属三光保育園・分園 PINO
ま と め 全体平均 3.76(本園) 3.65(分園)	
第2章 第1節 乳児期の保育	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育や土曜保育の際には安心して過ごすことができるように関わることを心掛けた。 ・個々の発達段階に合わせて、安心して過ごせることを心掛けて関わった。
第2章 第3節 満1歳以上満3歳児未満の園児の保育	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちや感じたことを言葉にして話すことを楽しむことができるよう話を聞いたり、気持ちを代弁したりするよう心掛けた。また、保育教諭から挨拶をすることで子どもが挨拶しやすい雰囲気になるようにした。 ・製作では様々な素材を準備し、素材の違いなどを感じることができるようにした。 ・安心して過ごすことができるように、声の大きさやトーンに気をつけ、笑顔でかかわることを心掛けた。
第2章 第4節 満3歳児以上の園児の教育及び保育	<ul style="list-style-type: none"> ・保育教材を用いて導入を行うことで子どもが活動に興味をもち、意欲的に取り組むことができた。 ・遊びを通して友達との関わりや集団生活のルールを学んでいくことができるように関わった。 ・自分の気持ちを伝えることが苦手な子ども、言葉が出るまで待ったり、気持ちを代弁したりしながら関わることで少しずつ自分の気持ちを表現することができるようになった。また、教師や友達との関わりを通して言葉で気持ちを伝え合う喜びや気持ちや伝わる嬉しさを感じることができるよう日々の会話を大切にした。 ・雨の日など室内で過ごす日には季節に応じた製作を準備し、素材や作り方も子どもに合わせたものを準備することで作る楽しさを味わうことができるようにした。自由に素材が使える環境づくりも心がけた。
第2章 第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に不安を感じる子どもが多かったが、戸外遊びに誘ったり友達との関わりをもつことができるようにすることで好きな遊びや気の合う友達を見つけ、次第に安心して園生活を送ることができるようになった。 ・子どもたちが自分で考えて行動できるように応答的なやりとりを心がけた。 ・個別の対応を心掛け、子ども主体の保育や応答的なやり取りを行うようにした。
第3章 健康及び安全	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の送迎時に子どもにも体調等を尋ねたり、子どもの表情をよく見て体調の変化に気付けるようにした。また、熱などの体調不良の時は事務室に相談し、子どもの状態に応じ保護者に連絡をしている。 ・特に、休日明けや病気で欠席明けの登園時に家庭での様子を聞くようにした。 ・野菜の栽培活動を通して収穫の喜びを感じ、食べることで子ども自ら苦手な野菜も進んで食べるようになった。バランスよく食べることについての紙芝居を読むと子ども同士で食の大切さについて話をしながら食べる姿が見られた。 ・日々、掃除を行うことで教室内を清潔に保ち、危険な箇所がないかを点検することができた。 ・夏のプールでは複数の教師で見守ることで危険がないか目を配って安全に行うことができた。 ・保健衛生面、安全面での職員間の連携や周知徹底においては、対応において新鮮さを持って対応が重要であることを再認識した。具体的には、毎年伝えていることや、わかっている、決まっていることの実施の有無について個人差があることを考慮し、適切な伝え方や伝え方の具体性を持った行動をしていく。 ・新しい玩具や教材を出すときは、誤飲に繋がらないように大きさを誤飲チェッカーを使って確認するよう心掛けた。 ・保育中の怪我や事故、ヒヤリハット案件は速やかに職員に周知して改善を図り、対策をして対応することを徹底した。
第4章 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・不安を感じている保護者と時間を取って話をすることで少しでも不安がなくなるように心掛けた。 ・送り迎えの際などに少しでも保護者と話すようにし、信頼関係を築くことができるよう努力をした。 ・子育て支援事業に関わることがなかった。 ・送迎時などに、保護者と話をする際は、傾聴することを心掛け真摯に関わるように心掛けた。
第5章 職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はプールの研修に参加し、そこで学んだ事を少しずつ自分の保育に活かせるように工夫した。 ・園内研修では、動画視聴などを使って、今の保育について理解をして実践ができるように工夫し、取り組むようにしていた。 ・不適切保育について、資料や園長からの研修を通して意識することができた。自分の何気ない声色や言葉等を意識する事や自分の立ち振る舞いを振り返ることの大切さを感じた。子どもがどう受け止めるかを大切にしたい。
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・本園、分園ともに中途退職者が複数出てしまい、園児の情緒面や保護者に不信感を与えない配慮が必要であった。そのため、本園を前年度末に退職した保育者に再勤務を依頼して対応した。保育者の質の向上に関しては、全職員を対象として、不適切保育予防のための研修を行った。子ども基本法の意義や遵守事項等、具体的な事例を通して、すべての職員が理解して、すべての子どもの最善の利益が保証される環境の整備を行っていききたい。 ・子ども主体の保育の充実発展のため、従来の保育課程を見直し中である。行事をはじめ、目的やねらいを改めて問い直し、子どもが興味・関心を抱き、好奇心や探求心を満足させられる環境を提供していききたい。

データ表(本園)			データグラフ(本園)	
内容	項目数	平均	自己評価	
「乳児保育」	15	3.76		
「満1歳以上満3歳未満児保育」	32	3.91		
「満3歳児以上児保育」	53	3.65		
「教育保育の配慮事項」	16	3.87		
「健康・安全」	29	3.78		
「子育て支援」	14	3.49		
「職員の資質向上」	6	3.82		
計	165	3.76		
データ表(分園)			データグラフ(分園)	
内容	項目数	平均	自己評価 職員平均	
「乳児保育」	15	3.83		
「満1歳以上満3歳未満児保育」	32	3.75		
「教育保育の配慮事項」	16	3.70		
「健康・安全」	29	3.75		
「子育て支援」	14	3.03		
職員の資質向上	6	3.83		
計	112	3.65		